

巖島神社三十年祭

谷柏報広



平成30年3月11日(日)、厳島神社において、30年祭(中祭)が挙行されました。

昭和63年に60年祭(大祭)が行われて以来、30年を経た今年が30年に一度行われる中祭の年となりました。式典では、30年振りに御神体の扉が開けられ、美しい琴の音色が流れる中、厳肅に神事が執り行われました。

また、厳島神社の祭典や清掃奉仕に長年貢献された故佐藤修氏とシニアクラブに対し感謝状の贈呈が行われました。氏子総代からは、新しい幟旗の奉納がありました。

引き続き場所を隣のゲートボール場に移して行われた直会では、稚児舞、しゃぎりの競演、タイムカプセルの開封と封印、餅まきなどが行われ、暖かな春の日差しの中、厳島神社は大賑わいでした。

(直会の様子については、次頁以降にあります。)

「1年間、祭りっぱなし！」
～30年中祭も無事終わりました

祭典委員長 内田賢志

さて、つぎは???・・・この言葉がこの一年間、常に頭にありました。

年度当初は、式典の数の多さと打ち合わせ等の大変さには戸惑いましたが、今は、安堵感と寂しい気分が入り混じってます。周りの区からも柏谷は大変だとか、祭典の数が多いとか言われます。確かに数も多く、段取りが大変ではありましたが、ひとつひとつの神事の意義がわかると、先人たちが神社を中心に、そしてとても大切に生活をしてきたんだなと感じとることのできました。

この一年を振り返ると・・・

7月の八坂神社祭典では、担ぎ手と御輿をからげられる人を探しまわり・・・

同じ7月の白雲庵の法要では、区の式典唯一の仏式であることに不思議さを感じ・・・

10月の日枝神社の例大祭では、悪天候のため、前日まで段取り変更に追われ・・・

12月・1月の除夜祭・元旦祭では、注連縄(しめなわ)の藁の手配にバタバタし・・・

1月の山の神・地鎮様では、正月3日から祭典委員と参道の掃除をし・・・

3月の厳島神社祭典では、30年に一度の年に当たり、一年がかりで話し合いを重ねながらギリギリまで内容調整をし・・・

風祭、感謝祭、祈年祭だけは悩まず、気楽にできたかな？

本当に迷い、段取りに追われた一年でしたが、私の下についてくれた三人の委員が盛り上げてくれ、助けてくれたから迷いや苦労以上に楽しくやることができました。

また、多くの人と関わりを持てた一年でもありました。

当番組、片付け当番組をはじめ、各種団体の皆さん等、本当に多くの方々と出会うことができ、共にひとつのお祭りを通して仲良くなることができました。こんなことがなければ、話すらすることもなかったかと思います。

特に当番組の組長さんは、組下をまとめあげ、ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。お祭りは、労を労っていただき、次への励ましの言葉をいただき、とてもうれしかったです。

以前「柏谷区民みんなが、神社の氏子である」と耳にしたことがあります。広報柏谷での宮司のコラムにもあったように、神社が氏神様であり、この柏谷の地域の神様でありますから、住んでいる皆様も氏子なんですね。

区民皆が氏子ですから、古い家とか新しい家とかは関係なく、私たちを見守ってくれている神社の祭典に、もっと多くの区民の皆様が積極的に参加、ご協力いただけたらうれしく思います。

せっかくお祭があるので、みんなでやって楽しみましょう！！

最後に、厳島神社30年祭中祭も、晴天の下、盛大に行うことができました。子供会の子供たち（我が子もいますが）が、30年後に開封されるタイムカプセルに手紙を入れてくれました。30年後、働き盛りの大人になっ

た彼らが、タイム
カプセルを開封し
てこの手紙を読ん
だ時、このお祭り
のことを思い出し
てくれたら嬉しい
です。

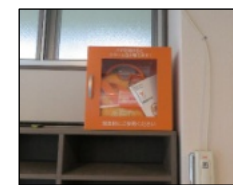
願わくば、彼らが厳島神社60年祭大祭の運営に携わっていてくれたら、さらにとっても嬉しいです。



柏谷区祭典四人衆（厳島神社にて）

AED講習会

12月と1月の組長、協議委員定例会の後に、消防団の女性団員を講師に迎え、「AED講習会」が開催されました。講習会では、実際にAED（自動体外式除細動器）を使つての救急救命訓練が行われました。各組長さんたちも積極的に実技訓練に参加され、大変有意義な講習会となりました。



編集後記

「広報柏谷」もいよいよ今年度最後の第4号となりました。今回は、記念すべき厳島神社30年祭を大きく取り上げました。足掛け2年にわたり準備を進めてきたこのお祭りを、盛況のうちに終えることができ、区長以下、一同ホッとしているところであります。あと残すは総会のみと言いたいたところですが、区としては既に新年度に向け、休む間も無く、新しい体制がスタートしています。新区長の下、これからどんな1年になるのか楽しみです。

ところで、柏谷区の活動や行事を多くの区民の皆さんに知ってもらいたい。区の活動に興味を持ってもらおうと始めたこの広報柏谷ですが、実際のところ、まだまだその目的の半分もできていないような気がします。来年度、広報柏谷がどのようになっていくかは、やってみないと分かりませんが、皆さんからのご意見や感想をいただきながら、引き続き地域に根差した様々な情報を発信していきたいと思っています。そして、皆さんに柏谷区のいろいろなことを知ってもらいたく、区長の言葉を借りるなら、今まで気付かなかった柏谷を「再発見」して欲しいです。皆さんに愛される広報柏谷を目指し、限られた人材、時間、予算を駆使し、来年度もチャレンジしていきますので、「広報柏谷」に、これからも皆さんからの応援、よろしく願います。

「広報柏谷」では、皆さんからのご意見、感想、情報提供などをお待ちしています。